
殺人鬼

秋名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人鬼

【Nコード】

N6138B

【作者名】

秋名

【あらすじ】

僕は小さい頃からずっと思っていた。将来のしたいことを・・・

僕は殺人鬼になりたかった。

人をたくさん殺す殺人鬼になりたかった。

人を殺すってどんな感触なのかを味わってみたかった。

それよりも死体をたくさん見たかった。

時々すれ違う人を見て思うこともあった。

「もしこの人を殺したらどうなるんだろう？」って。

人を殺しても見つからなければいいんだって思うこともあった。

死体を隠し通せばいいって思うこともあった。

そして10歳の秋・・・

初めて死体を見ることが出来た。

死体は僕のお父さんだった。

お父さんは駅前で僕と歩いている時に突然おなかから血を吹き出して倒れた。

その時は何が起こったのかわからなかった。

あとでわかったけどお父さんはその時有名だった通り魔に殺された。

でもその時は少しだけ通り魔に憧れていた。

少しだけ尊敬した感じになった。

でも・・・

お父さんを殺した通り魔が許せなかった。

捕まえたかった。

裁いてもらいたかった。

だから僕は・・・

名探偵になった。

お父さんを殺した通り魔を捕まえたいと思った。

同じような被害者を出したくなかった。

同じ想いをする人を出したくなかった。

時には人探しもした。

時には相談にものった。

時には猫も探した。

時には地域のボランティアもした。

でもお父さんを殺した通り魔はなかなか現れなかった。

時には事件も解決した。

時には殺人事件にも関わった。

探偵になって初めて気づいた。

「僕のやりたかったことが二つともできる」と。

一つはお父さんを殺した通り魔探し。

もう一つは・・・

死体をたくさん見ること

〈終〉

（後書き）

どなたか採点又は評価していただけると嬉しいです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6138b/>

殺人鬼

2010年12月29日08時04分発行